

地域の資源を活かす 高度化法で成し遂げた変革

－法令等を踏まえた成長戦略を考える－



経営塾OB会 東日本Bブロック
青木環境事業株式会社 松木英典

2026年2月12日

Introduction

💡 プロローグ

時代を変えた挑戦者たち



2035年のプラスチックリサイクル

プラスチック材料フローの変化予測

ランク	処理状況	2024年	
		数量(万t)	数量(万t)
松	マテリアルリサイクル	203	400
	ケミカルリサイクル		
竹	サーマルリサイクル	608	400
	単純焼却	69	0
梅	埋め立て	32	0
	計	911	800

※記載データ参照元 (出典) プラスチック資源循環戦略

(出典) 2024年プラスチックマテリアルフロー図プラスチック循環利用協会

OB会の広域ネットワークの活用

💡 メリット

✓ 400社を超えるOB会員数との共創

✓ 多様性ある会員企業が集うため、**仕組構築**が可能



質と量の確保_1

💡 再資源化事業等高度化法の活用

事業形態の高度化

製造側が求める質、量の再生材を確保するため、
広域的な分別収集 & 再資源化の事業を促進

廃棄物(リサイクル品)の流れ



質と量の確保_2 (1/2)

💡 各拠点における目的



拠点A

「量」の確保

金属、木くず、塩ビ(PVC)製品を最初に取り除く



拠点B

「質」の向上

バージン材代替が可能なレベルまで純度を高める



拠点C

「製品」の完成

強度や溶けやすさの調整と供給の安定化



質と量の確保_2 (2/2)

💡 各拠点における作業



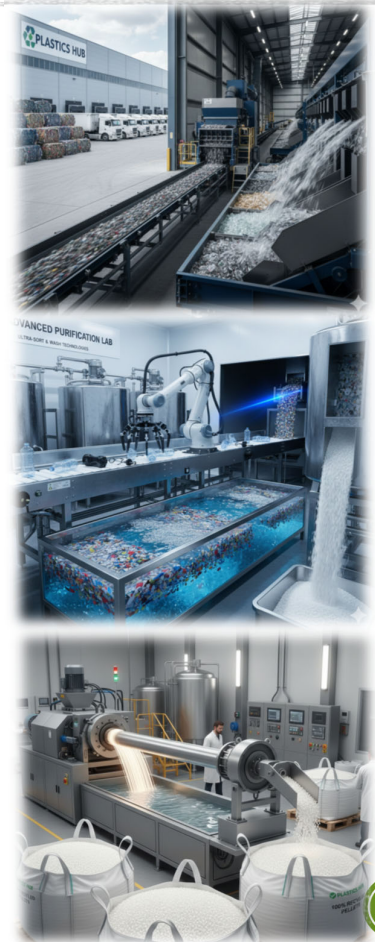
AI自動選別・手選別、粗破碎、
光学選別、ベール化(圧縮)



微粉碎、高度光学選別、
比重選別、高度洗浄(薬品、高温)



コンパウンド(混錬)、
真空脱ガス押出、品質保証



収益

💡 経済性

	拠点A	拠点B	拠点C	単位
処理費 (収益)	20	0	0	円/kg
買取費 (コスト)	0	10	60	
処理物売却費 (収益)	10	60	100	
残渣処理費 (コスト)	30	10	0	
処理量 (収益)	800	0	0	万t/年
買取量 (コスト)	0	600	450	
処理物売却量 (収益)	600	450	400	
残渣量 (コスト)	200	150	50	
年間収益	1,600	1,950	1,300	億円/年
全国の拠点数	50	15	2	カ所
1拠点当たりの収益	32	130	650	億円/年
設備投資、技術	低	中	高	

※製品としてメーカーへ



CO2削減

💡 削減効果

削減効果 483万tCO₂e/年

算出根拠

プロセスでの削減効果

『焼却→再資源化』
3,285,769 tCO₂e/年

+

プライマリー材代替効果

『プライマリー材→再生材』 **30%**
1,545,600 tCO₂e/年

EUでは
炭素価格 10,000円/tCO₂e
を超えることも…



※算出式詳細

プロセスでの削減効果：『焼却等 → 再資源化』 $4,000,000 \text{ t} \times 0.821449 \text{ tCO}_2\text{e/t} = 3,285,769 \text{ tCO}_2\text{e/年}$

プライマリー材代替効果：『プライマリー材 → 再生材への置換（30%）』 $1,200,000 \text{ t} \times 1.288 \text{ tCO}_2\text{e/t} = 1,545,600 \text{ tCO}_2\text{e/年}$

※炭素価格参考 <https://www.enegearu.com/worldbankreport-carbonpricing-currentstatus-trends2025>



さらなる成長戦略

💡 強みを生かす

我々にできること

- ✓ 地域資源の理解・安定確保
- ✓ 地域との信頼関係の構築

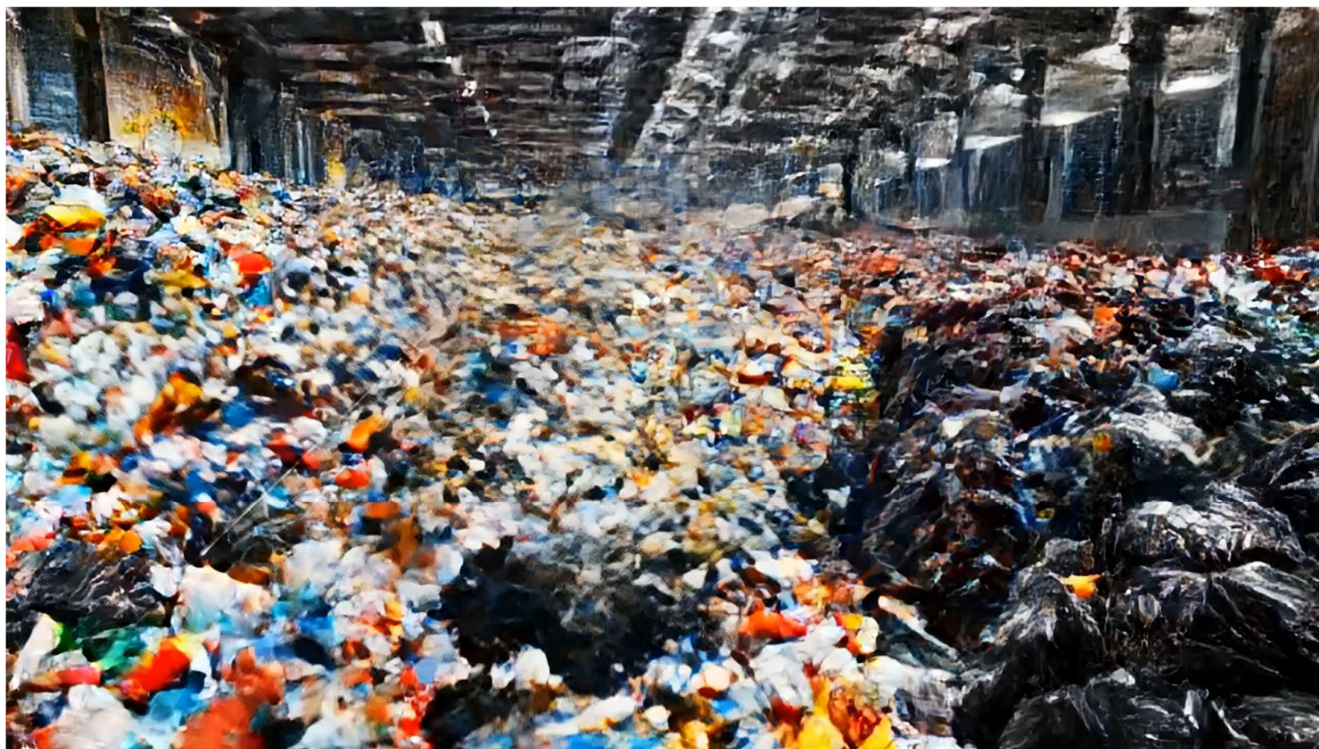
動静脈連携

共創すべきこと

- ✓ リサイクル品を加えたコンパウンド配合レシピ
- ✓ DPPを活用した素材のデータベース化
- ✓ 連携した高度化法の認定



地域とともに



終わりに

💡 エピローグ



ご清聴ありがとうございました

地域の資源を活かす

高度化法で成し遂げた変革

経営塾OB会 東日本Bブロック

